

令和5年度生野区区政会議 第2回全体会

1 開催日時

令和6年1月23日（火） 19時00分～21時11分

2 開催場所

生野区役所 6階 大会議室

3 出席者

(区政会議委員) 27名

森口委員、長谷川委員、平島委員、川本委員、栗津委員、西村委員、永裕委員、中村（寛）委員、須郷委員、村岡委員、薮本委員、倉本委員、玉井委員、北口（英）委員、田村委員、福田委員、北口（充）委員、島本委員、西野委員、廣川委員、足立委員、安委員、塚本委員、中村（一）委員、川中委員、山納委員、今井委員

(大阪市会議員) 2名

木下議員、山田議員

(大阪府議会議員) 1名

角谷議員

(その他関係者) 6名

田中様、多田様、和田様、新井様、伊藤様、三木様

(生野区役所) 16名

筋原生野区長、小原副区長、近藤教育委員会事務局学校環境整備担当部長兼生野区役所こども未来担当部長、大川企画総務課長、木村地域まちづくり課長、川楠まちづくり推進担当課長、松村安心まちづくり担当課長、中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山東教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、徳元教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、山崎保険年金担当課長、松藤生活支援担当課長、小川保健福祉課長、森子育て・地域福祉担当課長、宮城窓口サービス課長、杉本区政推進担当課長

4 委員に意見を求めた事項

(1) 議長・副議長の選出について

(2) 令和5年度生野区の取組み中間振り返りについて

・資料1 令和5年度生野区運営方針中間振り返り

(3) 令和6年度生野区の取組みについて

- ・資料2 令和6年度生野区運営方針（素案）

(4) 部会報告

(5) その他

- ・参考資料1 説明スライド資料
- ・参考資料2 いただいたご質問等と区の考え方、対応
- ・参考資料3 いただいた主なご意見等（要約）と区の考え方、対応
（令和5年度第2回各部会）
- ・参考資料4 いただいた主なご意見等（要約）と区の考え方、対応
（令和4年度～令和5年度第1回まで：全体会）

5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは皆様、お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただいまから令和5年度生野区区政会議第2回全体会を始めさせていただきます。

本日は委員の皆様ご多用の中、ご参加いただきましてありがとうございます。

私、事務局の生野区役所企画総務課、杉本と申します。着座にて失礼いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日の全体会ですが、このたびの委員改選によりまして、新しいメンバー構成となっております。お手元に新しい委員名簿をお配りしておりますので、またご覧いただければと思います。

それでは、本日の出席状況、傍聴及び会議運営、会議録の作成についてご報告いたします。

本日の会議は委員定数30名に対しまして、26名のご出席があり、定数の2分の1以上の出席にて、有効に成立してございます。また本日の傍聴者は2名となっております。

続きまして、条例第8条第1項に基づく市議員の皆様のご出席について、五十音順でご報告申し上げます。

木下誠議員です。

○木下議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

山田正和議員です。

○山田議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

また、同じく第2項に基づく関係者のご出席について、ご報告いたします。

角谷庄一大阪府議会議員です。

○角谷議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

同じく、関係者として、歴代の議長等を務められました皆様のご出席について、ご報告申し上げます。

田中照章様です。

○田中様

こんばんは。

○杉本区政推進担当課長

多田龍弘様です。

○多田様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

和田友祐様です。

○和田様

こんばんは。

○杉本区政推進担当課長

新井光淑様です。

○新井様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

伊藤廣美様です。

○伊藤様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

三木幸男様です。

○三木様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

以上でございます。

なお、区政会議に関する本市の規則によりまして、出席された方のお名前、発言内容等が公開されます。後日事務局にて会議録を作成しまして、区役所のホームページ等で公開しますので、録音や撮影についてご了承のほどお願い申し上げます。

また、前回の部会の際にもお伝えいたしましたが、本市における区政会議のより一層の見える化のため、本日の会議の主な様子を動画にて収録いたしまして、後日インターネットで一定期間配信し、どなたでも閲覧いただけるようにしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日の区政会議の趣旨と配付資料についてご説明いたします。

本日の全体会では、主に生野区の今年度の取組みの振り返りを踏まえた課題や来年度の取組みについて、委員の皆様にご意見やご議論をいただきたいと考えております。

次に、本日の資料についてご説明いたします。

左肩に当日用とございます「令和5年度生野区区政会議第2回全体会次第」をご

覧ください。本日の会議資料を記載してございます。

まず、資料1といたしまして、事前に送付しております「令和5年度生野区運営方針中間振り返り」というA4横の資料がございます。

次に、資料2としまして、こちらも事前に送付してございます「令和6年度生野区運営方針（素案）」というA4横の資料がございます。

続きまして、本日配付の資料でございます。

まず、参考資料1として、後に前面のスクリーンにて投影いたしますスライドを印刷したA4横の説明スライド資料がございます。

また、参考資料2として、このたび委員から事前にいただいたご質問等と区の方考え方・対応を記載したA4縦の資料がございます。

そして、参考資料3としまして、先月に開催しました各部会において委員からいただいた主なご意見と、区の方考え方・対応をまとめましたA4縦の資料がございます。

そして、参考資料4としまして、昨年度から今年度の第1回目までの全体会におけるご意見をまとめたもの、こちらもA4縦の資料がございます。

また、資料番号は振ってございませんが、このたびの新しい生野区区政会議委員名簿、及び本市における区政会議の運営に関する条例もお配りしてございます。

事務局からのご報告は以上でございます。

それでは、会議の開催に当たりまして、当区の区長の筋原からご挨拶を申し上げます。

○筋原区長

皆様、こんばんは。生野区長の筋原でございます。

本日はお仕事やご家庭のご用事でお忙しい中、また大変お寒い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

1月1日から能登半島地震がございまして、大阪市のほうは輪島市を一对一の支援をするということで決まりまして、生野消防署のほうはもう1月1日から、署員を現地のほうに派遣をしておられるんですけども、生野区役所のほうも今週から、まず第一陣として職員を現地のほうに派遣しまして、避難所の運営に当たっているところでございます。また引き続きまして区役所の保健師も、現地のほうに派遣をしまして、避難所等での健康管理の支援に力を尽くしてまいりたいと考えております。

あらためまして生野区では、河川氾濫、内水氾濫の水害とそれから南海トラフ地震、また直下型の地震のですね、地震、また老朽家屋とそして密集市街地が多いので、火災の場合というふうに、それぞれケースが違う災害が想定されるわけがございますので、それぞれの災害に対応した防災の取組みを、また実際に避難所運営について職員が経験して戻ってまいりますので、そういう情報も共有させていただきながら、防災の取組みをしっかりと進めてまいりたいと考えております。

先日開催の各部会にご出席をいただいたわけがございますけども、本日は各部会の報告をさせていただきまして、全体で共有させていただくとともに、また部会同様に、この全体会におきましても忌憚のないご意見をいただきまして、よりよい区

政につなげてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。
ありがとうございます。

○杉本区政推進担当課長

それでは、これから議事に入るに当たりまして、後ほど委員の皆様方に議長及び副議長を選任いただきますが、それまでの間、このまま事務局のほうで進行を務めさせていただきます。

それでは早速ですが、議事に入ります。

お手元の次第の議事（１）議長・副議長の選出についてでございます。

ただいまより条例第7条第1項の規定に基づいて、委員の皆様の互選により議長及び副議長を選任いただきます。

それではまず、どなたに議長をお願いするかについて、ご意見・ご推薦などございませんでしょうか。

○川本委員

では、前回から継続して区政会議の委員をされております区地域振興会の北口充宏さんを議長に推薦したいと思いますがいかがでしょうか。

（拍手）

○川本委員

ありがとうございます。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。北口充宏委員ということで、議長に選任されました。

それでは、北口委員、お手数でございますが、今から議長席のほうへご移動のほど、お願い申し上げます。

ここからの進行は、北口議長にお願い申し上げます。

○北口議長

ただいま議長に選任いただきました異東の北口充宏でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは早速ですが、続きまして副議長の選任を行ってまいります。

ひとまず私のほうから候補をご指名させていただきたいと思います。

新規委員ではございますが、過去に区政会議委員のご経験がおありの中村寛子委員をお願いしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（拍手）

○北口議長

ありがとうございます。それでは、副議長は中村委員に決まりましたので、中村委員は副議長席へ移動をお願いいたします。

○中村副議長

ただいま副議長に選任いただきました中村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○北口議長

それでは早速ですが、会議の次第に沿いまして、次の議事に入ります。ここからは着席にて発言いたします。

議事（２）令和５年度生野区の取組み中間振り返りについて、及び議事（３）令和６年度生野区の取組みについてということで、区役所から説明をお願いいたします。

○武田企画総務課長代理

皆さん、こんばんは。企画総務課の武田と申します。

それでは私のほうから、生野区の取組みについて令和５年度生野区運営方針中間振り返り、令和６年度生野区運営方針（素案）についてご説明いたします。着座して説明のほうさせていただきます。

前面のスクリーン、または右上に参考資料１と書かれました資料のどちらかをご覧ください。

まず、「くらしの安全・安心部会」の取組みについてご説明いたします。

詳しい取組み内容につきましては、事前に送付しています資料１と資料２にありますが、それらの中からピックアップしてご紹介いたします。

まず、この「くらしの安全・安心部会」で取り扱うテーマですが、「防災・防犯」、「地域福祉」、「人権・多文化共生」と大きく３つに分かれております。

まず、１つ目の「防災・防犯」についてご説明いたします。

災害に備えての現状・課題です。

生野区は老朽家屋や空き家が多く、住民の高齢化も進んでいるため、災害対策・要支援者の避難支援対策が急務であること、危機事態に対応できる体制・人材が不足しているといった課題があります。

それらの課題に対する取組みとして、地域防災リーダー育成や中学生で組織されるジュニア災害リーダー育成を行っています。このジュニア災害リーダーは、今年度発足し、18名の方に参加いただきました。

個別避難計画の作成については、令和４年度に北鶴橋連合でモデル事業として作成しておりますが、今年度から18連合で策定に着手しています。

災害発生時の的確な対応ということで、今年度から新たに生野区内一斉に合同防災訓練を実施しています。この合同防災訓練は、区政会議でいただきましたご意見を反映し実現したもので、訓練にはジュニア災害リーダーや外国人の方にも参加いただきました。今後は毎年実施する予定でございます。

続きまして、空き家などや老朽住宅への対策ということで、今年度は生野区内の南部を調査地域に指定し、空き家の実態調査を実施しています。今後は利活用可能な空き家かどうかを調べるため、まずは所有者調査を行い、DM送付などにより空き家所有者へアプローチする予定にしています。

犯罪・事故の防止に向けての取組みについて、まず、現状・課題としまして、依然として街頭犯罪が発生していること、高齢者を狙った特殊詐欺が発生しやすい、自転車事故が多発しているといった課題があります。

それらの課題に対する取組みですが、犯罪の防止としまして、生野区全域一斉パトロール、防犯出前講座ガチ☆メン、広報紙の特集記事による啓発などを行っています。

事故の防止としまして、生野区住みます芸人であります田津原理音さんによる自転車交通ルールと運転マナーの啓発動画を紹介しています。

「防災・防犯」の令和6年度の取組みのポイントとしましては、これまでの取組みを引き続き行っていくとともに、避難所機能強化のための物品や改選に伴う防災リーダー装備品などを用意し、防災力の強化を図ること、令和5年度に発足したジュニア災害リーダーについて引き続き育成に努めること、空き家オーナーの意識改革を図ることなどを目的に普及啓発イベントを実施し、空き家利活用を促進していくことなどの取組みを推進していきます。

続きまして、「地域福祉」についてご説明いたします。

現状・課題としまして、特定健診やがん検診などの受診率が低く、健康づくりへの関心を高める必要があること、地域包括ケアシステムの推進が求められていることなどが挙げられます。

この課題に対する取組みとしまして、すべての世代の健康づくりでは、生活習慣病予防や介護予防、各種検（健）診の重要性の周知・啓発・受診勧奨といった取組みを行っていきます。

身近な見守り・支えあいでは、地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業やご近“助”パワフルサポート事業の取組みを行っています。

ひとりも取りこぼさない支援を、での現状・課題ですが、児童虐待相談や要保護児童対策地域協議会検討件数が増加傾向にあること、高齢者をはじめ、障がいのある方、独り親家庭、ひきこもり・不登校の子どもやヤングケアラーなど課題のある方への支援が必要であることなどが挙げられます。

それらの課題に対する取組みですが、真に支援が必要な方への確実な対応としまして、虐待の早期発見・早期対応、再発防止に向けた啓発、くらしの相談窓口いくの、こども地域包括ケアシステム、こどもサポートネット事業の実施などを行っていきます。

貧困の連鎖を断ち切るための支援としまして、いくの塾、生きるチカラまなびサポート事業を行っています。

「地域福祉」の令和6年度の取組みのポイントとしましては、これまでの取組みを引き続き行っていくとともに、住民の健康意識を向上させるとともに、地域住民による支え合いと、公的支援が連動した包括的な支援体制を構築し、切れ目のない支援の実現を目指すこと、支援を必要とする人や課題のある人に対して必要な制度やサービスが確実に届くように、各種ネットワークの連携強化を図ることを推し進めていきます。

続きまして、「人権・多文化共生」の分野に参ります。

ここでの現状・課題は、外国につながる住民向けの情報発信や庁内案内表示、各種制度のパンフレット、チラシなどの多言語化が不十分であること、外国につながる住民の属性、居住実態やコミュニティの形成状況など詳細情報を把握し切れてないことなどが挙げられます。

この課題に対する取組みとしまして、人々の多様性を尊重し、認め合える環境づくりでは、地域人権講座の開催をはじめとした各種の人権啓発の取組みを行ってい

ます。

外国につながる住民が安心して暮らせる環境づくりでは、令和6年度には新規事業としまして、多彩な団体と協働しながら食を通じた国際文化交流事業を展開、外国につながる住民の意識等調査・施策検討事業を実施します。

「人権・多文化共生」の令和6年度の取組みのポイントとしましては、これまでの取組みを引き続き行っていくとともに、万博を契機として、多彩な団体と協働し、食を通じた国際文化交流事業を展開し、外国人住民との共生社会実現に向けた調査・施策検討事業を行い、外国人住民の実態や抱える問題を把握し、具体的な支援につなげる取組みを行っていきます。

以上、簡単ではございますが、「くらしの安全・安心部会」の説明を終わります。

次に、「こどもの未来部会」の取組みについて、ご説明いたします。

まず、「こどもの未来部会」の取り扱うテーマですが、主に「子育て・教育」の分野となります。

安心してこどもを産み育てることができる環境づくりについての現状・課題ですが、孤立しがちな子育て世帯が、気軽に相談や交流ができるような機会の提供などの支援が必要であること、親が子に絵本を読み聞かせる機会が少ないことが挙げられます。

その課題に対する取組みですが、ライフステージに応じた子育て支援の充実では、保健師による妊娠期からの継続支援、生野区子育て支援会議の開催などに取り組んでいます。

安心して子育てできる環境づくりでは、生きるチカラを育む絵本プロジェクトや子育て応援イベントをはじめとした様々な取組みを行っています。

未来を生き抜く力の育成についての現状・課題ですが、学校外での学習状況や将来への希望、困難に立ち向かう児童生徒の割合が全国平均と比べ低くなっている、区内の児童数が減少しており、児童の良好な教育環境の確保及び教育活動の充実を図るため、学校配置の適正化が必要という状況があります。

これらの課題に対する取組みですが、次世代の学校づくりでは、学び支援事業、いくの塾、生きるチカラまなびサポート事業、学校の適正配置などの取組みを行っています。

また、IKUNO未来教育ネットワークでは、多様な企業・団体等にご登録いただき、キャリア教育や体験活動の充実、学校支援を推進しています。

こちらは株式会社ダイヤと田島中学校の取組みですが、中学生がパンを企画・提案し、企画開発した商品が実際の各店舗で販売されました。

こちらは株式会社オカムラと桃谷中学校の取組みです。中学生がデザインを提案し、歯ブラシがオンラインショップで販売されています。

そのほかにも、産官学で次世代の子どもたちの教育支援を行っています。

まちの教育力を上げるでは、生涯学習に係る様々な取組みを行っております。

「子育て・教育」の令和6年度の取組みのポイントとしましては、これまでの取組みを引き続き行っていくとともに、次世代を担う子どもたちが健やかに育つため

の環境を構築するとともに、区における産官学と地域の連携を図り、学校ごとに異なる課題や特色に対応した多様性に富んだ質の高い教育支援ができる仕組みを構築します。

また、子どもが地域の大人に学ぶことで、多世代交流を図ることができるように進めていきます。

以上、簡単ですが、「こどもの未来部会」の説明を終わります。

「まちの未来部会」の取組みについてご説明いたします。

「まちの未来部会」では、主に、「まちの魅力・地域活性化等」が分野となっております。

リノベーションまちづくりについてですが、現状・課題としまして、万博を契機としたまちの活性化としまして、ものづくり産業の振興、学校跡地活用、空き家等の利活用、移動手段の確保について取組みを進めていく必要があります。

万博を契機としたまちの活性化ですが、今年度からEXPOいくのヒートアッププロジェクトプロモーション事業を実施しています。令和6年度は、新規事業としまして多彩な団体と協働し、食を通じた国際文化交流事業を展開します。

シェアサイクルの推進につきましては、生野区及び天王寺区で実証実験を行い、また市内24区で利用・普及促進に向けた協働事業を開始しており、今後はサイクルポート数の増加を目指しています。

次に、ものづく生野のポテンシャルでは、ものづくり産業の振興に関する様々な取組みを行っています。

特に今年度から、区内企業の連携やクリエイター等のマッチングを行い、生野区ものづくりタウン事業を実施しています。

学校跡地を核としたまちの活性化では、現在、御幸森小学校、生野小学校、林寺小学校、生野南小学校で活用事業者が決定し、新たな活用がスタートしています。今後、舍利寺小学校、勝山小学校でも、地域の皆様のご意見をお伺いしながら、跡地の活用に向けて取り組んでいきます。

空き家、空きスペースを活用したにぎわい創出ですが、団体や企業と連携し、利活用の促進に取り組んでいきます。

持続可能な地域公共交通の推進では、地域公共交通検討会を開催し、生野区にふさわしい地域公共交通の導入に向け、認知度・理解度の向上をはじめとした支援を行っています。また、来訪者の回遊性向上に向けて、シェアサイクルの利用促進を進めていきます。

続きまして、生野区シティプロモーションですが、現状・課題としまして、発掘・浸透されていないまちの魅力発信や、生野区に来たい、住みたい、住み続けたいと思うような情報発信について、まだまだ十分でないということが挙げられます。

わがまち意識の浸透ですが、生野区持続可能なまち支援事業、いくみんLINEスタンプ販売などに取り組んでいますが、今後は公民連携を推進し、企業・団体と連携して、魅力発信に取り組んでいきます。

続きまして、生野区の魅力の世界の魅力にでは、万博とまちの魅力情報発信サイ

トIKUNO TO GOを令和5年11月に開設しています。

「まちの魅力・地域活性化等」の分野で、令和6年度の取組みポイントは次のとおりとなります。

令和6年度は万博開催1年前となることから、万博機運醸成に係るPRの強化を図るほか、引き続き「EXPOいくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業を実施する。万博を契機に、区民のQOL、生活の質の向上と都市力の向上を目指すため、DXを推進し、データやデジタル技術を活用したサービスの提供や、シニア世代へのスマートフォン普及などスマートシティに向けた取組みを進める。公民連携の推進により、地域課題の解決に取り組むとともに、生野区の魅力等情報発信を行い、地域の活性化につなげていきます。

最後に、「まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進」についてです。

現状・課題については記載のとおりとなっています。

具体的な取組みとしまして、会議の開催支援やまちづくりセンターと連携し、各まちづくり協議会の活動発信、まちづくり協議会の意義や機能の説明などの取組みを行っています。

また、令和6年度には、まちづくり協議会の補助金について、より運用しやすくなるように制度の見直しが行われます。

以上、簡単ではございますが、生野区運営方針の説明を終わります。

○北口議長

ありがとうございました。

それでは、続けて部会からの報告に入ります。

最初に、「くらしの安全・安心部会」からの報告をお願いいたします。

○川中委員

それでは、「くらしの安全・安心部会」につきまして、川中よりご説明申し上げます。

先ほどの区役所からの説明にもありましたとおり、本部会では3つのことがテーマとなっています。防災・防犯が1つ目、2つ目が地域福祉、3つ目が人権・多文化共生となっております。それぞれにつきまして説明してまいります。

まず、防災・防犯についてですけれども、防犯の部分で2つの意見が出されました。防災活動の担い手を増やし、同時にその多様化を進めていくという観点からジュニア災害リーダーの取組みについて、学校等と連携して、その取組みの厚みをもたらしていくということと、活躍の場を広げていくということの必要性が指摘されました。また、青少年指導員や青少年福祉委員等、ほかの様々な地域の役職者の方々との連携を強化していくべきであろうという意見も出されました。

防災についての2つ目です。災害避難所の環境改善についての意見が出されました。特に物資につきまして利活用しやすいように整えておくということや不足を解消するということはもちろんですけれども、それに加えて多文化や多言語での対応についての促進ということも必要性が指摘されました。

続きまして、防犯でございますけれども、過年度の部会でも指摘されておりました

たが、防犯カメラの維持管理に加えて、増設についての検討をしてほしいという旨の発言も確認されました。また、区全域一斉パトロールについて取組みが進んでいることは評価するけれども、実施することが目的ではないので、その開催目的に照らして他の取組みと合わせていく創意工夫が考えられるべきであろうという意見が出されました。

2つ目のテーマであります地域福祉につきましては、大きく2つの意見が出されました。まず、特定健診・がん検診の受診に関するところです。こちらについては、受診することの意味、便益、それを具体的に経験談も含めて示していく必要があるのではないかという意見と、また、かかりつけ医等を持っている方にとっても、この受診を受ける必要があるという意味とその理由を説明していくことが重要であろうということでした。

地域福祉の2つ目についてです。地域コーディネーターの方からご意見があり、地域福祉の中で様々な制度や施策が進んでいるけれども、その制度間、あるいは施策間での壁があって、個人情報等の共有がうまくいっていないという指摘があり、その連携を進めていくように調整をしていただきたいというご意見がありました。

ご報告の中でもヤングケアラー、子ども・若者ケアラーの支援の必要性がうたわれておりましたけれども、同時に中年層のケアラーの支援というのも必要ではないかという、そうしたご意見もございました。

最後、3つ目が人権・多文化共生に関するところです。こちらでは細かく3つの意見が出されました。1つ目です。現在も生野区役所は行政情報について丁寧に情報発信を進めているわけですが、より一層その情報提供を強めていく必要があるだろうということです。

2つ目です。当事者コミュニティが存在をしているわけですが、その当事者コミュニティと地域コミュニティとの接点を増やしていくという方策について、より検討していくべきであろうと意見が出されました。

最後は、今年度に行われるニーズ調査についてです。そうしたニーズ把握のための社会調査が行われる意味があることを確認した上で、外国人住民と言われている人たちを支援の対象という側面だけで捉えるのではなく、協働のパートナーとしての側面にも光を当てていくことを考えていただきたいことが議論とされました。

詳細につきましては、資料、また議事録をご清覧いただければと思います。以上です。

○北口議長

ありがとうございました。

続きまして、「こどもの未来部会」からの報告をお願いいたします。

○今井委員

12月19日に「こどもの未来部会」がありまして、その報告を今井からさせていただきます。

子育て支援と学校再編の2つについて主に議論されました。

まず、子育て支援のほうからです。

これは「くらしの安全・安心部会」の「地域福祉」とも重なることが多いのです

が、ライフステージに応じていろいろな制度や支援が様々にあるなか、そういった制度からこぼれてしまったりする人たちについてのご報告やご意見などがありました。制度の限界がある中で、地域でどうやって見守りをしていくか、地域だけではなく、やっぱり専門的に専門家が対応すべきものもあるのではないかと、そのような意見がありました。

具体的に話していきたいと思います。3点ほどありました。

最初に、妊産婦さんのことが取り上げられました。妊娠中、そして出産してから1年以内のお母さんですが、育児に不安やストレス、孤立感を抱えているというお母さん方が非常に多いと。外国人のお母さん方も自分の国のお母さん同士ではつながりがあるけれども、地域のつながりはない、そういった中で、区政では保健師を軸にした取組みを様々に展開されているわけですが、保健師さんは業務が多いではないかと。助産師という専門家をもう少し活用したらどうかと、そういった意見が多く委員の方から提案という形でありました。

その次ですが、学童期に移りまして、不登校の子どもが増えているという、そういった現状をお聞きしました。学校の先生も一生懸命対応されているが、なかなか家庭の中には入っていけないと。そういった中で、学校と行政がもっと連携してはどうかと。そういった声がある一方で、不登校といっても様々な要因や背景があるわけですが、子どもだけではなく、保護者へのケアとか理解みたいなものがまだまだ足りないのではないかと、そういったところも手厚くしていくべきではないかといったご意見もありました。

3点目ですが、発達障がいのある子どもですとか、虐待と思われるような子どもが周りにもいるけれども、どういうふうに通報をしたらいいとか、どういうふうな声かけをしたらいいか、そういった逡巡するような、戸惑いがあるといったお声もありました。ただ、委員の方からのご意見で、当事者本人だけではなく地域でいろいろ理解していくようなネットワークであるとか、そういったこともして行って、みんなで見守っているよと、地域の宝として子どもを育むことが大事ではないかと、そういった指摘もありました。

ほかにも生野区の絵本の読み聞かせの取組みはとてもすばらしいと。ですが、一方的な絵本の読み聞かせだけではなく、子どももその中に参加していけるような、そういった双方向のこともできたらいいのではないかとという具体的なアイデアもありました。

学校再編のほうに移りたいと思います。これまでも何度か意見があったかとは思いますが、やはり学校再編に伴って、通学路での安全面のことについて幾つかご意見がありました。私もいろいろ勉強してみたのですが、通学路の変更で、大きな道路を大人が渡るのを見て子どもたちも渡ってしまうとか、近道なので渡ってしまう子どもを見かけると。ですので、安全面でもう少し対策が必要ではないか、そういったご意見がありました。

あともう一つは、統合により子どもの数が多くなった学校がある。そのため、放課後のいきいき事業の中で、子どもたちの居場所といいますか、座る場所がなかったり、勉強する場所もないぐらいたくさん子どもがいるので、学校の空き教室をも

っと有効的に使えたらいいのではないかと、そういった声がありました。

本当に活発な意見がたくさん出たのですが、最後に、生野区に学童期こども支援連絡会というものがある、生野区の様々な子どもの取組みをしている、そういったマップの紹介がありました。生野区で行政だけでなく、地域でいろんな取組みをしているということを再確認して、なおかつそういった地域の取組みと行政、学校が信頼関係を持って連携していくことが必要なのではないかと、連携や信頼関係みたいなキーワードでその日は終わったかなと思います。以上となります。

○北口議長

ありがとうございました。

続きまして、「まちの未来部会」からの報告をお願いいたします。

○山納委員

山納です。12月20日にまちの未来部会を行いました。区役所の方からの説明の後に特に皆さんが気になっていることは何でしょうということで2巡ぐらい話をしていただいたのですが、まず、学校跡地の話が割と熱く語られた感じでしたね。資料の中にもありましたが、林寺小学校跡地がアブロードインターナショナルスクール大阪校さんに使われるようになったと。つまり「学校」が「学校」になったということですね。現在1歳半から中学3年生がおられる。子どもたちが生野区にやってきた。先生たちも生野区に住むようになったらしいという話。人が減ってどうしようと思ったら、学校ができて子どもたちが増えてくれたということがすごくいいというお話をいただいた。

また生野小学校の跡地のほうは、ワン・ワールド・インターナショナルさんというやはりインターナショナルスクールさんが入っている。こういった活用がある一方で、資料にある御幸森小学校の跡地では、いくのコーライブスパークという、民間のRETOWNさんという会社と、地元のNPOが運営をしている。こちらのほうでいろいろと問題があるという話が実は出ています。主には土日の学校跡地施設について、地元の人が使えろという話だったのに使えないじゃないかということが話として出ていたりしました。現状がそうなっているのかということをお話させていただいた感じでは。

また、地域の情報発信ということに関して、情報発信は行政がやるということもあるけれど、まちでいろいろ活動している人が自主的にSNSなどを使って発信して、生野区というのはいろんな活動があって面白いですよということを、より伝えていけたらいいのではないかと熱く語っていただいた方々がおられたり、また生野を面白くする活動を仕掛けていけばいいのではないかとということをお話いただいたりもしています。

ベースにあります人口が減っていく、高齢化が進んでいく、空き家が増えていくという問題にどう対処していくのか。そこで、空き家活用やリノベーションという言葉も出てくるわけですが、この問題はそもそも生野区だけの話なのか。人口は確かに減っている、空き家はほかの区に比べてちょっと割合が高いぞという現状はあるのですが。兵庫県明石市が子育てにすごく力を入れていて人口増を目指しているという話も出まして、ゼロサムゲームっていうんでしょうか。結局人口は

減っていく中でどこも同じ課題を抱えている。だから実は課題解決なんていうそんな簡単なものではないんだと。ものすごく難しい課題に直面していて、何を考えていくのかっていうことをやっていかないといけない。解決できるような簡単な問題じゃないのではないかと、というようなことを話し合ったりもしていました。

また、いろいろとまちの未来を語る前に、区役所としてのサービスをもうちょっと充実させることはできないかというお話もありました。実際、住民票を取るのに大分時間がかかるじゃないかっていう話もあったんです。一方で、区役所のほうからのご説明にもありましたが、実は予算がないわけではないのだが、職員の成り手がなかなか見つけられない昨今であるという説明もいただいています。

そういうことも含めて、地域の持続可能性というのでしょうか、地域自治というものには誰がどう守っていくのかということも考えていかないといけないということが、話し合いの中から分かってきたように思います。

もう一つですね、地区の活動、地域まちづくり協議会の話なども出ていました。

なかなか活動の担い手がいない、世代交代がうまく進まないということが本当に問題なんです。年配の世代がすごく熱心に活動してくれている。だからもっている。でも、次の世代でそれを担ってくれる人は見つかるのだろうか。そういったことを不安として感じていると、幾つかの地域から伺ったりもしています。

また、EXPOいくのヒートアップ事業というのが行われようとしていると。来年万博ですからそれを機に盛り上げていこうと、特に、ものづくりの生野ということをもっと情報発信していこうと。この事業の受託者は生野区の事業者なのですかと聞くと、八尾市の事業者であるという話がありました。生野区のことを生野区の企業が、生野区の団体が支えていくというふうにならないものでしょうかと、僕などは言ったのですが、いや、生野区には外からの目線が要ると。より新たな魅力を発信していこうと思ったら、外の力を借りることが有意義なんじゃないかという議論も行われたりしました。

あと空き家の利活用の話ですけれども、どこが空いてるとかいうことのマッチングは行政の役割かもしれませんが、実際に空き家を持っているのはオーナーさんであって、それを活用していくのは民間の領分であると。そのメンバーの中には工務店で働いておられて、リノベーションに取り組んでおられる方もいる。であれば、そういう人たちがどうこの空き家を活用して、この地域を面白くしていくのか。そういうことを主体的に考えていく必要があると、大体そんな議論を尽くしてまいりました。以上です。

○北口議長

ありがとうございました。

ただいま、区役所からの説明と各部会からの報告がありました。

これから、委員の皆さんに意見交換をしていただきますが、区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが行政とともに生野区の課題解決のためどう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となります。よって、委員の皆様の個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言をお願いできればと思います。

なお、意見交換に際して、限られた時間でより円滑に進めていただけるよう、ここからは学識委員の山納委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。

それでは、山納委員、よろしくお願いいたします。

○山納委員

あらためて、山納でございます。よろしくお願いいたします。

ファシリテーションを仰せつかったわけですが、今から1時間ぐらいの時間をいただいて皆さんとお話をしていこうと思っています。

26名おられるんですかね、非常に多くの方にお集まりいただきましたので、1人あたり、お話いただく時間は2分ぐらいじゃないかなと思っています。先ほどの報告を聞いて、もしくは部会のほうで話し合っていて考えていた中で、どの部分にすごく関心があるとか、問題だと思っているなど、また、こういうことをやっていきたいということについて、この場で共有するような時間とさせていただければと思っています。

ということで早速マイク回していきたいと思いますが、あちらからマイクを回させていただいて。大体2分ぐらいでお願いできますでしょうか。区役所の方への質問等ありましたら、最後にまとめてお答えいただくというような感じにしようと思います。

では、よろしくお願いいたします。

○須郷委員

こんばんは。まちの未来部会の須郷と申します。よろしくお願いいたします。

先日の部会ではいろんな意見が出たんですけど、地域によっては地域と跡地に入られた事業者さんとの関係がうまくいっていないところもありました。私はもと林寺小学校の跡に入りましたアブロードインターナショナルスクール大阪校で、地域連携アドバイザーとして地域との調整役を担っております。いろんな意見が出て当然のことと思いますが、スムーズに進めていくには、まずはお互いが本音で話し合いをして、もしうまくいかなかったとしても、そこはしっかりと話し合いを続けて、どこの部分が相入れられないのか、どこの部分であればうまく調整可能なのかといったあたりを根気よく擦り合わせていけば、解決につながるんじゃないかなと思っています。いつもいろんな意見が出るわけですが、橋渡し役として間に入りまして、常に前向きに取り組むことができっております。今のところアブロードと林寺の地域ではスムーズな形に進行することができております。

○山納委員

ありがとうございました。

倉本委員、お願いします。

○倉本委員

こんばんは。小路地域の倉本でございます。よろしくお願いいたします。

このたび、まちの未来部会に初めて参加をさせていただいたわけですが、生野区に住んでいる区民として、どうやったらこの生野区のよさを外の方々だったり、今お住まいの若い世代の方々に伝えていけるかっていうのを考えていける1年でありたいと、そう感じております。ただ、客観的に見ると、コリアンタウンはすごく

盛り上がっていて、若い方にたくさん来ていただいているような場所もあったりしますので、そういったまちづくりとまちの魅力が、ほかの区だったり、新しい世代の方々に伝わって、子育てがしやすく、楽しく住めるという区なんだよというのを伝えていきたいなと個人的にはすごく思っております。

あとはものづくりのまちということで、古くからある企業様だったりとか、そういった職人の方が多い地域でもありますので、子どもたちの職業体験だったりとか、小学校・中学校の方々と一緒になってそういったまちの魅力も発信していけるような区であってほしいなということを願っております。

最後に、個人的にはシェアサイクルをすごく活用させていただいていますので、台数が増えてとても喜んでおります。ただ、まだシェアサイクルが行き届いていない地域も生野区内にはありますので、もう少しそういった大阪シティバスさんだったりとかと連携強化をしていただきながら、アクセスのよさというのを追求していきたいらなというふうに感じておりますので、今年度1年引き続きよろしく願いいたします。以上でございます。

○山納委員

ありがとうございます。

それでは、島本委員、お願いいたします。

○島本委員

こんばんは。

今、お二方が言われた意見と同様なんですけども、さらに生野区がまた住みたいなと思うようなまちに、魅力についてこれからまた一緒に考えていきたいと思えます。

○山納委員

あっさりされましたね。よろしいですか。

では、安委員お願いいたします。

○安委員

初めまして。安といいます。こどもの未来部会の話が1点、ほかに2点ほど、行政が今どう考えてはるのかということと、やっぱりちょっと解決せなあかん問題をちょっと提案させていただきます。

1つ目は、こどもの未来部会の中で、保健師さん並びに助産師さん、特に産後ケアの問題について私のほうから発言させていただいたんですけど、産後の2、3か月が一番大変な時期で、実は私の親族も育児ノイローゼで鬱になってはるんですけど、そこのケアがやっぱりちょっと薄いんじゃないかなと。あえて全体会議の中も発言させていただきたいと思えます。

あとの2点は、さっき山納委員から発言ありましたように、万博を契機としたまちの活性化ということで、八尾市の企業さんが「EXPOいくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業を受託されているという話なんですけど、どんな事業をしているのか見えてこないの、ちょっとその辺を、活性化のためにこのプロジェクトをやるということであれば、今の現状、実績をあらためて聞かせていただきたいというのが2点目。

3点目につきましては、今回の質問事項の2番目に挙げさせていただいているんですけど、私、御幸森小学校の跡地委員会の1人だったんですね。御幸森小学校の中で話をされてたのは、基本、西部再編地域は売却すると、大阪市教育委員会として、売却というのは一定の方針であるとは私聞いてたんですけど、やっぱりそこは防災拠点なりね、地域のにぎわい拠点として、学校は残していこうということで、前区長がパブリックマインドのある企業さんに立地してほしいという話だったんですね。跡地委員会も公募要件を持ってきているんですけど、その中に地域とともに業者さんがあるべきと、公募要件19ページ書いてあるんですけどね、具体的に言うと、スポーツ等の教室に週2回夜間、講堂を使うということになってるんです。活動理由としてね。それ以外にも、猪飼野おとな塾に使うとか。それがどこまで履行されているかということに関して、私の質問には答えていただけてないんですけど。使用時の備品の破損等の補償問題や使用ルール等について、事業者との調整に時間を要しているということですけど、もう2年以上たつんですよね。地域に開放するというのが前提で、御幸森小学校の地域の人たちがやむなく、断腸の思いで閉校したにもかかわらず、地域にちゃんと開放されていないのは。2年ですよ、2年。私、御幸森小学校出身なので、あえて言わせていただきます。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

では、足立委員、お願いいたします。

○足立委員

こんばんは。こどもの未来の足立です。

子どもに関して、担い手の育成ということでは、ジェンダーの問題がちょっとここには挙げられてないなというふうに思います。地域組織もそうだけれど、いろんなところで女性活躍とか推進とか言われている割には、やる気のある人たちが進んでやりたいと言ったときに受け入れるシステムになっていないなと。依然として受皿ができていないなというふうにすごく思うんです。子育てしながらとか、介護しながらとか、様々なことを担っている女性の人が参加できるような地域活動だったりとか、子どもの支援活動というところを、もう少し行政が配慮して、アドバイスしてほしいなと。どうしても今まで地域活動の担い手が男性中心になっていまして、そこら辺を柔軟にできるようにしてほしいなということが1点。

もう1点は、生野区はとっても魅力のあるまちで、単にまちの活性化というだけではなく、例えば不登校の子どもたちの支援に柔軟であるとか、勉強は苦手で、学校にあんまり行きたくないけど、ものづくりは面白そうやから、何かおっちゃんたちのところに行っているいろいろやってみたいなっていうような、そういう受皿は大阪のどこよりも生野区にはあると。私も子どもたちと一緒によくものづくり企業の見学に行ったんですけど、やっぱり目の前でね、すごい技術を見せてもらったら、子どもたちがとっても興味を持つんです。別に勉強ができなくても苦手でも、生野のおっちゃんたちはオンリーワンのもの作ってんねんって、まさに生野区のものづくりってそうだから。例えばここ、部会は3つあるけれども、それぞれの部会で横断というか、それぞれのよさが組み合わさるようにできたらいいなって。それもこの

区政会議の場面で共有できること違うかなというふうには思っています。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

では、北口委員、お願いします。

○北口（英）委員

こんばんは。こどもの未来部会の北口でございます。

個人的な意見になるかもしれませんが、朝、見守り隊というものをやらせていただけてまして、最近の子ども、よくね、朝でも「おはようさん」とか言うたらよう挨拶してくれるのはいいんですけども、ただいかんせん、夏場・冬場にかかわりなく、早い子は早いんですけども、遅い子は本当に遅くて、学校に間に合うかという時間帯に家を出てくるんですよ、何人か、決まった子なんですけども。そういう子どもたち、多分家庭の事情って言ってしまえばそこまでなんでしょうけども、親御さんももうちょっと何とかね、いろいろあると思うんですけども、ちょっと家庭でも、ほったらかしするんじゃないで、
「はよ行きや」いうふうな感じの環境が整えるようにできたらいいかなよく思うことはあります。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

では、村岡委員、お願いします。

○村岡委員

こども未来の村岡です。よろしくをお願いします。

私も子どもに関することなんですけれども、この前青パトに乗せてもらってずっと校区を回ってたんですけれども、四つ角が結構危ないところっていうか、もう車がびゅうっと出てきたりするところがあって、やっぱりそのところに見守りの方がいらっしゃったら、子どもにとっては安心だと思うんです。でも、見守りに出てくださいの方が少ないから、もうちょっと皆さんも協力してもらって、出れるようにしていただけたらいいなと思うのと、カーブミラーですか、あれがあると右から車が来たりとか、そういうのが子どもにも分かりやすいと思うんですよ。それが全くないところが多いので、ちょっと考えていただけたらいいかなと思います。よろしくをお願いします。

○山納委員

ありがとうございます。

では、西村委員、お願いいたします。

○西村委員

こんばんは。こどもの未来部会の西村と申します。舍利寺のほうから参りました。

1つ目は安委員もおっしゃいましたけれども、やはり授乳期・妊娠期のお母さんたちの問題、特に3か月ぐらいまで本当に独りで悩んでらっしゃるお母さんたちが多いう実態があるかと思っておりますので、子育てはお母さん独りでするものではなく、やはり地域みんなで育てていくものだと思いますので、そういうことにつながればいいなと思っております。

それから、義務教育が終わって成人になる18歳までのほさまの子どもたちの問題、

グリ下の問題などもあるかと思えますけども、そういう子どもたちの問題も抜け落ちているのかなと思います。手を差し伸べていただけたらと思います。

それから、今日の報告の中で外国人の人たち、居住実態というか、コミュニティの形成の状況などが把握されていないということですけども、これだけ外国の方が多いとずっと言われ続けている中で、そういうのがあまり把握されていないということに私ちょっとびっくりしたところもあるんですけども、この予算を見させていただいていると、人権・多文化共生のところだけがすごく、令和5年度の495,000円に比べて令和6年度が12,595,000円に増えているので、そういうところにかけていただけるのかなと思ったり、期待しております。

それから、舍利寺の跡地の問題については、まだこれから地域の人たちのほうで考えていかないといけない、まだまだ何もほかの地域のように考えも実際にできてもいないし、考えられてもいないので、地域の発展を特に考えていきたいなと思っております。

それから、私も見守り隊をさせていただいてまして、今年で17年目になりますけども、2年前から大きく通学路が変わりまして、今まで全然子どもたちが通らなかったところを通ることになっております。先ほど部会のご報告もありましたけども、消防署の前の渡ってはいけないところを小さい2年生、3年生の子どもたちが信号のない6車線の道を渡ったりしてる現状もあるのに加えて、今日も一方通行の道を逆走する車がありました。この1年10か月で私が立っているときだけでも4台ほど逆走している車を見かけて、注意させてもらったりしておるんですけども、そういう問題もこの通学路の問題としてあるのかなと思います。

それから、今日オンデマンドバスの新しいバス停を見かけたんですけども、昨日からそのバス停ができたということなんですけども、連合のほうには何もご連絡がなかったんで、せっかく新しいバス停ができたのであれば、町会長なり女性部長なり、福祉コーディネーターにも知らせていただけたら、より住民の人にも役立つのではないかなと思えました。

シェアサイクルについて、今赤い自転車が生野区のほうでは選定されているいろんなところに置かれておりますけども、我々舍利寺地区はとても交通のへんぴなところなんで、このシェアサイクルがもっともって増えたらいいなと思っておりますんで、この白い自転車とか別に2社でも3社でもいいんじゃないかなと思うんで、もっともって増やしていただければなと思っております。

最後にヤングケアラー、中高年層のケアラーのこともありましたけれども、今日か昨日の新聞にも載ってましたけども、ダブルケア、育児と介護両方を担っている方が全国で30万人だかたくさんいらっしゃるということでしたけども、生野区の現状はどうなっているのかなと疑問に思っているところもございますので、そういうところも、もし把握していらっしゃるのであれば教えていただければなと思います。

長々となりましたけれども、以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

川本委員、お願いいたします。

○川本委員

2分間ということで、短く言います。

まず、正月から大きな災害がありました。地震がありました。私は勝山校区なんです。勝山小学校が廃校になります。跡地の問題をいっていますが、勝山小学校の耐震が全然駄目なんです。駄目なところに跡地やとか、避難所やとか、そんな安心・安全のまちづくりではないと。跡地をいう前に、小学校の耐震をどうするか考えていただきたい。

○山納委員

今井委員、お願いします。

○今井委員

2点ありまして、まず1点目はこどもの未来部会のほうで、妊産婦さんについてかなり多くご意見が出たので、本当にどういった状況にあるのか、調査や現状把握が進んであるならば、また公開していただけたらと思いました。実際の状況というのをもっと知れると、それにふさわしい何らか支援だったり、地域の取組みというのもできるのかなと、そういったことを思いました。

2点目ですが、先ほど川中委員のほうから外国人住民の人について支援の対象として捉えるだけではなく協働の対象としてというふうな形のことを言われたので、子どもに関しても、今年度こども家庭庁ができたものもありますので、支援の対象としてだけではなく協働という形で、不登校であれ、障がい持ってあれ、多文化の子どもであれやっぱり一緒に住んでるパートナーだということで、何か施策ができたらなど。

あと、能登半島の地震で被災地が大変ですが、外国人の人たちも被災地支援に行っているところにも目を向けていただきたいなど。トルコの地震の恩返しだということで、大阪のトルコの方がキッチンカーで被災地に行ったり、西成のベトナムのNPOが能登半島で被災を受けたベトナム人技能実習生の支援に行ったりとか、そういう取組みがあるので、ぜひ防災とか減災とかの取組みも、外国人コミュニティのリーダーと一緒にいろんな国の炊き出し料理をすとか、子どもも巻き込むとか、何かこう一緒に何かできればいいなど。部会横断で何か楽しいことができるんじゃないかなとそんなことも思いました。以上です。

○山納委員

廣川委員、お願いします。

○廣川委員

明けましておめでとうございます。2年目になりました。まちの未来部会の廣川と申します。

まちの未来を考えたときに子どもを育む環境っていうのが多分重要なんじゃないかなという。やっぱり育てていってそれが循環するような形が理想系かなというふうに考えたときに、行政と民間の距離がちょっと遠いのかなと。その距離感を縮めるような施策、取組みやったりとかが結構重要になってくるんじゃないかなというふうに自分は思います。楽しい行政やったりとか、生野区だけじゃなくて、やっぱり人口減っていく中で、プレイヤーを育てるのか、はたまたよそから呼び寄せるの

かっていったところは両方の軸で進めていかないといけないのかなと思っています。

その中で見え方をどうつくるか、生野の価値をどこに置くのかっていうのがすごく重要なポイントかなって自分は思っています。

私ごとですが、本当にパッション型で進む人間で、生野は空き家が多い中で、所有者と直接つながれたら、結構パッション持ってたら、あなたやったら使っていて言われることが多々あって、空き家を今後再生させるに当たって、毎月の家賃、赤字にならない感じで借りられるっていうようなところまで持っていけたので、生野区ってすごくチャレンジする機会が豊富なんじゃないのかなと思っています。自分としてはそれを多く発信して、よそからもそうだし、プレイヤーが育む環境がくれたらなと思っています。

とりあえずちょっと暗い感じなので、楽しくやっていたらなと思ってるんで皆さんよろしくをお願いします。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

塚本委員、お願いします。

○塚本委員

まちの未来部会の塚本です。よろしくお願いします。

こどもの未来部会の資料で、発達障がい児等支援ということがありまして、私は以前、支援学校の教員をしております、生野区って大阪市の中でも支援学校が2つある、聴覚支援と生野支援と。けれど、支援学校ってなかなか地域にあんまり溶け込んでないというか、地域からちょっと遠く離れてる感じをちょっと持っていたので、発達支援だけでなく視聴覚とか病弱とか肢体不自由とかの子どもたちの支援とかを地域で取り組めることについて、何か話合いができればもっといいかなと思いました。以上です。

○山納委員

ありがとうございました。

永裕委員、お願いします。

○永裕委員

こどもの未来部会の永裕です。

こどもの未来部会なので子どもの話をとったんですけども、防災の話をさせてもらえたらなと思います。

生野区全体で避難所立ち上げ訓練をしたという話が先ほど報告でありましたけども、区政会議でのやってほしいという意見を拾って、やりましたということをお願いしていただいたんですけど、実は言うたの私なんですよ。「やったあ」と思ったので、ありがとうございますという。過去の全体会のときにそれをお願いしたら実現してもらえたってのはとてもありがたいことやなと思います。こうやって声を拾ってもらえるとありがたいなと思ったので、より積極的に何か発言できたらなと、意見としてね、上げていけたらなと思います。

その中で、もう一つ、JDLっていうのがあって、ジュニア防災リーダー、それも今年始まった取組みで、紹介されてましたけど、実はこれにうちの子どもが参加し

まして、JDLの参加者に向けた研修というのを私も横から保護者として見せていたんですけど、この内容がまたもうものすごくよくて、こんな濃い研修を受けさせてもらえるんやっていうのを生で見て、あれはぜひたくさんの子に受けてほしいなと思いましたし、本当に避難訓練とかそういうのじゃなくて、もっと根幹の、実は防災ってのはこういう動きで動いてるんだよっていう、まちが協力して、行政も協力してってそういうところからのお話もされているのを具体的に見せてもらって。避難所開設訓練と一緒にやったときもですね、区役所側に入れてもらって現場を見せてもらったっていうので、あれはね、本当に子どものうちに見ておくってのはとてもすばらしいことなので、ああいう取組みがこの先、これからの中学生また小学生とかね、いろんな形でその年代に合わせた防災の取組みに入っていけると、とてもいいのではないかなと思いました。ぜひそういうプロジェクトも案として出せていけたらいいなと思います。ありがとうございます。

○山納委員

では、福田さん、お願いします。

○福田委員

こどもの未来部会の福田です。よろしくお願いします。

生野区内でも地域によっても異なるかは分かりませんが、小学校・中学校ともに不登校の児童生徒が年々増えていってるように私は感じています。もちろん、学校に行くことが全てでもないですし、子どもが学校に行くことで心が痛むのであれば、学校に行かないという権利も子どもが持つのは当然のことです。ただ、どうしても不登校の期間が長くなると、戻りにくくなるっていうのも、私なりに少し感じるんですね。不登校の子ども一人一人全てが異なる理由で、学校に行かないのか、行けないのか。それは一人一人異なる理由があると思います。それはもう学校だけの問題ではなく、担任の先生も含めて、個々の理由の把握は難しいと思いますし、それは行政、地域、私たち大人も含めて、いろいろと子どもの言葉を聞きながら、一人一人に異なる対応ができて、一人でも多くの子どもの、学校に戻れる日が来るのであれば戻してあげたいと、そういう努力をこれからもしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○山納委員

では、中村さん、お願いします。

○中村副議長

田島まちづくり協議会から来させていただいております、中村寛子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

先日、部会にも参加させていただいて、EXPOいくのヒートアッププロジェクトって何をしてるんですかとかっていう話題になって本当に分からないことだらけ。防災訓練を区全体でやったっていうのも、先ほど永裕さんがおっしゃってましたけど、正直回覧板を見ていなかった私が悪いのか、何も知りませんでした。

今日もお話の中に出てまいりましたけれども、保健師さんや助産師さん、産後ケアの問題、不登校の子どもたちがたくさんいるということ、空き家をどうこうすることなど、ここで話し合ってもすぐには解決しないけども、目の前のこと、何かで

きることを見つけて、地域の1人としてやっていく中で、生野区で育った子どもたちが将来大人になって、地域にこんなことをしてもらった、地域のおじいちゃんおばあちゃんにこういうことを教えてもらったって言って、ふるさとのことのように話してくれるようなまちになればいいなというふうに思っております。

まちづくり協議会の運営の仕方っていうことも、日頃から大丈夫かなっていうふうに思っていました。町会長さんたちの年齢が結構高齢になってきてますので、その次の担い手とか町会長さんの役割っていうのも、いまいち地域の人に理解していただけてない、住んでる住民の人たちに理解してもらえてないってところがあるのかなと思いました。中間の年齢の私たちが上手に引き継いで、次の世代につなげていけたらいいなというふうに思います。

皆さんと一緒に、また区政会議のこの場でお勉強させていただきたいなと思いますのでよろしく願いいたします。

○山納委員

北口委員、お願いします。

○北口議長

くらしの安全・安心部会の北口です。

まず、防災につきまして3つお願いがあります。

先ほども申されましたが、ジュニア災害リーダーの発足で18名の育成されましたが、大変喜ばしいことだと思いますし、平日の昼間、中学生はほぼほぼ地元に住みますので、以前、中学校で消防署によるレジ袋を使ってのたすきのつくり方、毛布を使った担架のつくり方等、大変参考になりました。ですから、ぜひ続けていただいて、中学生に防災意識を高めていただきたいと思います。

2つ目です。生野区災害時協力事業所登録団体が22件とのことですが、ご近所の工場、車関係でしたらフォークリフト、工具、道具もお持ちですから、地域地元からしましたら、震災等災害時すごく心強いと思いますので、登録団体を増やしていただきたいと思います。

3つ目です。昨年11月12日、防災訓練が実施されましたが、避難所での物資の不足、もしくは物資がどこにあるかっていうことがちょっと分からないことがありましたので、ぜひ訓練の継続をお願いしたいと思います。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

森口さん、お願いします。

○森口委員

北鶴橋地域推薦でくらしの安心・安全部会で2回目の区政会議委員となります森口です。よろしく申し上げます。

私のほうから皆さんの手元にあります質問事項の中に、裏面ですね、3点ほど、先ほどからまち協の方もいろいろお話が出てたんですけども、まず、私も青少年指導員、長くやらせていただきまして、青指出身の私からもちょっといろいろ思うところがありまして書かせていただいています。まち協ができて約10年たちますが、まち協って本来はあくまでプラットフォームであって、その下に各団体がつながって

ると、ぶら下がってるといいでしょうか。私が青指の執行部やってる6年ほど前は、当時青指も交付金を、もちろん今もそうですけど、いただいてまして、やっぱりそのお金を使うので、達成率を上げようということで、当時の会長も各校下でいろんな事業をしていこうと、例えばハイキングだったりドミノ大会であったり花火であったり、プール開放であったり、いろんな事業をしていったんですね。そうすると、ある時期になって、区のOBが、「いや森口さん、これまち協の事業に取り込まれたんですよ」と、取り込まれたという表現がいいかどうか分からないんですけども、当時は一生懸命青指が主催になってこういう事業をしていました。連合さんやまち協さんのほうに言って、みんなで工夫しながらやってたらしいです。でもいつの間にかまち協事業になっちゃうと。そううなると、先ほど言ったプラットフォームじゃなくて、ピラミッド型の組織に変わるんです。例えば頂点は理事長、もしくは副理事長の役員さんで、結局、各団体が手伝うんですけども、手伝いになっちゃうんですよ。そうすると、各団体のメンバーが、「いや、もうこれ手伝いやったらもういいで」と、「もう手伝わんでも、そんな無理にしていかにええやん」とかっていうことになって、各団体の魅力がだんだん失われていくっていうような気が、ずっと僕はしてたんですね。あくまでもプラットフォームっていうのは、行政から先ほど補助金の話がありましたが、お金をそこに下ろすからそれを各団体さんに使ってもらって、各事業をしてもらおうというのが役割だと思ってるんです。ですから10年たって、そのまちづくり協議会の役割っていうものの振り返りと、それから今後に向けての区役所の考え方を聞きたいということで、質問させていただいてます。

それから2番目に、まちづくりセンター。中間支援組織のまちづくりセンターっていう名前が出てますけども、私、北鶴橋でまちづくりセンターの方を見るのは、年に1回の総会のときと、担当が変わったぐらいのときしか私は顔を見ることはないですし、名前もちょっと覚えてないです。

地域のいろんな事業をやっていくにあたり、こういう悩みがあります、こういう思いがありますということをおっしゃってるんですけども、このまちづくり協議会とか各種団体って全部縦割りなんです。横の連携をしていくことが大事です。地域の地域活動の中で一番困るのは縦割りなんで、横のくぎ、横刺しにしてくれるコーディネーターっていうのがいないんです。従来ならば、このまちづくりセンターがその役割を担っていただかないといけないのに、プロポーザルで入札されて、NPOさんが受託されたんですけども、その入札案件の募集要項の一番最初に書いてるのが、基本的には地域活動協議会の支援、サポートっていうふうになってるんですね。それが具体的に僕らはどんなふうなことがされてるのかとか、やっぱ勤務体系とか人数とか、もう全く分からないんです。例えば、この質問と回答の中で、区役所はこういうことをやってますとか、例えばケアサービスはこういうことをしてますっていうのがありますけど、それ一々僕らがそこにまた問い合わせでどうこうじゃなくて、こういうことを見て、ここの地域はこういうことに困ってるんだなっていうたら、さっと来てそういうところを拾い上げてコーディネートして、例えば、我々とそこを結びつけたりってするのが、僕はそういうまちづくりセ

ンターの役割だと思ってたんです。でも実際NPOの方が落とされても、僕ら全く姿も何も見えないです。地域では絡んでるところもあるかもしれないですけども。ですからやっぱりこのまちづくりセンターの委託上限もですね、1,400万と比較的高いんですよ。もしそれを19校下で割ったら70万ちょっとです。逆に言うたらもう70万を地域に下ろしてくれて、各地域の悩み事を解決、解決っていうか支援してくれるコーディネーターを、そのお金プラスアルファで雇うほうが本当に地域にとってはメリットがあると思ってます。

ですから、このまちづくりセンターについて、実際のところ、生野区のこの機能の仕方がいいのか、それともこれでいいというふうに判断を皆さんされるのか。また他区でもそういった同じようなセンターがあると思いますので、他区はどんな状況かっていうところを見ていただきたいというのと、最後に、近鉄鶴橋駅の高架下なんですけども、高架下の耐震補強工事が終わったんですけど、いまだに白い鉄板で囲われて、ものすごくみすぼらしい、ターミナル駅とは思えない汚い駅になっています。これもやっぱり早くきれいに、きれいにというか開放していただけるように、区役所のほうからも働きかけをお願いしたいと思います。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

中村さん、お願いします。

○中村（一）委員

くらしの安全・安心部会の中村一仁です。よろしくお願いします。

私からは2点で、1点目はめっちゃきれいなまち生野っていうことで、これは防災・防犯、地域福祉、人権・多文化共生全てに共通する部分があるかなと思うんですけど、この半年ほどの私の個人的な経験で、ごみが落ちている、たばこの吸い殻が落ちている。住居が密集している場所ですし、やっぱり防災であったり、火災のこととかもありますので、きれいなまちになっていくっていうのが、私自身ごみ拾いをしたりするんですけど、一人一人でもできるような施策につながるようなことがなされていくといいなというふうに考えています。

もう1点がですね、誰にでも優しい福祉医療ということで、いろんな国籍の方とか、いろんな職種、考え方の方がおられると思うんですけども、ふだん、最近ですとネパール人の方とかが病気のこととかで困ってて、どこに相談したらいいか分からないというような声を聞くことがあって、日本語が全く通じない方もおられるんで、翻訳機片手とか、身ぶり手ぶりでいろんな形で非常にコミュニケーションに時間が取られる、コストが取られるわけですけども、それでも対応していくというようなことを個人レベルでやってまして、そういった形で一人一人が取り組めるような施策に、この安全・安心部会のテーマはつながるといいなと思っております。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

川中さん、お願いします。

○川中委員

2点です。まず、子どもの成長支援についてです。具体的には未来を生き抜く力の育成というところについて、子ども支援に力を入れていくということはよく聞かえてくるのですが、それに加えて若者層にも関心を寄せていただくと必要があるのではないかと考えております。具体的には、高校生世代以降の若者ですが、そうした若者の居場所や活動の支援といったことでの取組みの強化についても検討を今後進めていただけたらなと思っています。これが1つ目です。

2つ目です。これはさきの全体会でも申し上げたところですが、市民参画の推進についてです。前回の全体会と重複するところがございますけれども、子ども・若者の参画、意見表明や意見反映の機会の創出、また出前型の区政会議の拡充機会の創出といった取組みを提案いたしました。こういうことについて区役所からの回答は参考資料の4で、情報発信を強化していきますと返ってきてるのですが、私が申し上げたのは、情報発信の強化ではなくて参画機会の場づくりについての提案だったわけです。あらためて重ねての検討をお願いしたいということをお場で申し上げさせていただきます。以上です。

○山納委員

では、長谷川さん、お願いします。

○長谷川委員

くらし安全の長谷川です。

皆さん、私から見たら夢のような話をしてはるなと思うんです。もっと我々はもうちょっと現場のほうを見て、ほんまにくらし安全なってんのかどうか、そういうのを勉強しに来たんだと思ってたんですけども、何か大学のゼミみたいな感じで、何かもう机上の空論みたいなことを言うてるような話が多いなと。実際サラリーマンを50年しますとね、よう言われたんですよ。「何言うてんねん、もっと具体的なことを言え、実際それできんのか」というようなことをね。そういう経験が頭がしみついてるのかもしれないんですけども、例えば抑止力のある防犯カメラ、あれつけてもらってるんですけども、あとのフォローは全然ないですね。実際誰がそれを、SDカードやカメラとか故障したときどないするんやろ。つけてもらったところへ電話したらいいんやろうけども、そういうフォローは全然ないです。そやからそれを利用してるのは、警察からの防犯、すりとか、そういうときの事故の対応に使っているというのみで、果たしてそれが町会の安全につながってるのかなと思ったりもします。

それもそうですけども、その防犯カメラなんか高いところにあるんですね。誰かはしごをつけてあんな高いところへフォローできんのかなというように感じます。もうちょっと低いところで、防犯カメラありますよというプレートもね、あんまり目立たないようなところにつけてる場合もあります。

それと、一つ不思議に思うのは、桃谷公園のあまり人通りのないところに今度、たばこの喫煙場所ができるということで、今工事してます。あんな場所に作って誰が利用するのかなと、こんな行政の無駄遣いちゃうかなと思ったりします。土地の関係もあるんでしょうけども、あんなとこへわざわざ誰がたばこ吸いに行くんやというように感じもあります。

それともう一つだけ。自転車が多すぎるんですけども、中央区なんか行きますと、バイク路、自転車の通行レーンがあります。生野区は何でそれが無いのかなど。歩道ばかり走ってますね。せやから余計事故多いんちゃうかなど。もっとレーンをつけてほしいなと思います。以上です。

○山納委員

藪本委員、お願いします。

○藪本委員

こんばんは。くらしの安全・安心部会の藪本です。よろしくお願いします。

先ほどもお話がありましたが、今年は年明け早々大きな災害がありました。発災から3週間を過ぎました。テレビや新聞を見てみると、連日現地からの窮状が伝えられています。あらためて災害への備えをしっかりとしなければならぬと思いました。

最近、防災がテーマのテレビ番組を見ていますと、「フェーズフリー」という言葉がよく出てきます。フェーズフリー、日常と災害時、そのどちらの場面においても使えるものです。ふだん使いができる防災用品とのことです。例えば、玄関に置いてあります椅子の座面が蓋になってまして、それを開けますと、中に防災グッズが入ったリュックが入ってます。それを持ってすぐに避難できるというようなものです。ほかにも、クッションが寝袋になったりとか、リュックに笛がついていて、出先で家屋の倒壊などに遭って閉じ込められた場合、自分の居場所を知らせることに使えます。ほかにも、立て看板が担架になったり公園のベンチがかまどになるというものもありました。先日も摂津市で防災訓練が行われて、その中で公園のかまどベンチを使った炊き出しの訓練が行われたようです。この公園、ほかにも防災倉庫、防災トイレ等の設備があるそうです。大阪市におかれましても、このような防災機能を備えた公園づくりに取り組んでいただきたいと思います。以上です。

○山納委員

玉井さん、お願いいたします。

○玉井委員

北巽まちづくりのですね、くらしの安全・安全の玉井です。今日は初めてこの会議に出てですね、どういってお話をしてるのかなという事で、ちょっと今関心を持って見てたんですけども、私のほうとすれば、細かいことなんですけども、私の住んでおります北巽のほうは、子どもの通学路で危ないところや道の狭いところの角にですね、子どもの飛び出ししますよという看板を、両面にちゃんと色をつけたものを設置してるんですけどね。それが最近腐敗してしまって、もう全く見えなくなってる。そういうものが非常に多くなって、そのまんま、スタンドだけはあるけれども、子どもの飛び出しの姿が見えないような状態になってます。

これは細かいことですが、道の狭いところであれば、その隅々のところですね、やはり設置していったらいいのではないかなと私は今回このように思ったんです。生野区全体に設置されているのかどうかちょっと私もはっきりしてないんですけども、北巽にはそういうのがありますので、ぜひ、それを樹脂か何かでつくっていただいて、夜光塗料でも塗っていただくと夜もはっきり分かるということも

ありますので、お願いしたいなと思っております。よろしく申し上げます。

○山納委員

田村さん、お願いいたします。

○田村委員

くらしの安全・安心部会の田村と申します。よろしく申し上げます。

先日頂いた資料の中で生野区は全建物のうち、昭和56年以前に建築された現在耐震基準を満たしていない木造住宅が全体で44%あるというふうな資料を頂いたんですが、大阪市全体では27.4%らしいんですが、生野区が突出して高い数字であるということなんで、そのような耐震基準を満たしていない住宅をですね、もし空き家であるということで簡単に利活用してよいものかどうかということが1つ、私疑問に思います。

それと、先ほどからいろいろお話出ております能登半島での震災のことなんですけど、もう既に3週間以上たってるんですけども、もし大阪で東南海・南海地震が起こった場合、実際に今でも能登半島で支援物資がないとかいうことで、生活随分困られてはるんですけども、そういうことがテレビ、いろんなところで情報としてあるんですけども、実際に生野区でそういうことが起こった場合、支援物資が十分足りているんであろうかということ、私いろいろそれも不安に感じますので、もう一度その辺のところ、確認していただきたい。今、大阪では、もしそういう災害が起こったとしても、一切そういう支援物資が足りないとか、誰も困った人ができるだけ出ないような状況にあるというような、そういう安心できるような状態かどうか、一応確認していただきたいと思います。以上です。

○山納委員

では、西野さんお願いします。

○西野委員

西野でございます。よろしく申し上げます。

私もくらしの安全・安心部会の中で、先ほどから何人の方もお話が出てるんですけども、防災のことについてです。防災というと水と食料ということをすぐ思い浮かべますけれども、災害時はトイレの話で終わるっていうお話聞いたことがあるんですよ。その中で、私はやっぱり簡易トイレ、すごく避難所の中を見ましても簡易トイレが避難所に何台あるのかなと思ったときに、すごく少ないし、でも自分たちでいろんな工夫して防災訓練のときにもトイレも造れるよっていうことで、段ボールで造ってみたりとか新聞紙を応用して、食器を作ったりとかスリッパを作ったりとかしてやってるんです。やはり避難所の中でも今までは防災というたら男性中心の社会でしたけれども、もっとやっぱり私たち女性が参画して、もっと女性が活躍できる避難所開設っていうのもすごく大事なかなと思っています。

ですからそんな形で、私は避難訓練のときに頂いた簡易トイレをいつもリュックサックに入れて持っています。どんなときでもやっぱり一番困るのは、トイレ問題で、今回の地震に関しましてすごく私自身、関心があって、深刻な問題やし、またプライバシーの問題もあるので、そういうこともしっかりと考えていかなあかなと思いました。

それから健康の問題につきましても、やはりがん検診、自分自身もがんを患ったっていう中で、すごく早期発見の大切さを感じました。やっぱり健康第一でなかったらこういうボランティア活動やいろんな活動もできませんので、自身の体験をもとに皆さんに訴えていけたらなと思っています。ありがとうございます。

○山納委員

では、平島さん、お願いします。

○平島委員

まちの未来から来ました平島です。よろしくをお願いします。

御幸森まちづくり協議会から、先ほど安委員が御幸森小学校跡地ことを言ってくれたので、その続きをちょっと。ちょうど2年ほど前からRETOWNという会社ともう一つIKUNO・多文化ふらっというNPO法人が合同で賃貸で借りたんですけど、そこで安委員が言うたように、2年間地域が体育館をずっと使えないんですよ。それをずっと訴えているのに、区長も副区長も課長らもうちの会社に来て、十何回もしゃべって、市議員の方も相談乗ったけど、みんならち明きません。

この問題も解決できないのに、この区政会議でどんな大切なことやっても意味あるのかなといつも僕は思ってるんですね。

また、去年の11月の生野区防災訓練を一斉にやったときに、うちの御幸森小学校跡地の防災訓練をするときに生野区役所から防災フェスもすると。何か模擬店みたいなのを出すいうから、僕はちょっと断ったんですけど、どうしても無理やりさせられて。僕ら朝集合して、端っこでこそこそと防災訓練をやったんですよ。今回能登半島の地震が起こったときに、その防災訓練の食フェスをやった方は被災地に行ったんですかね。

もう、何ていうかな、話があっちこっち、あれなんですけど、今回の件で言うなら区役所ができる範囲の話をやったほうがいいんじゃないかなと思ってるんですね。

例えば、青指の問題もあったんですけど、50歳で定年なんです。うちの御幸森はほとんど青指いてないんですよ。「50歳になったら逃げられるわ」っていうて辞めてしまって。本来なら、聞いたら福祉のほう行くらしいんですけど、いや福祉にも行かずに、もう青指までやったからもう辞めると、だから町会長もならない、誰も出ない。だからもうはっきり言ってまちづくり協議会というのは、多分区役所の縮図であって、いろんな問題をうちのところに持ってくるわけね。担い手がいないのが見えている。10年後、多分ないやろなというのが、そんな感じかなというように思うんですけどね。ちょっとこれで終わりますわ。

○山納委員

栗津さん、お願いします。

○栗津委員

まちの未来部会の栗津です。前回も言わせていただいたんですけども、住んでる地域に空き家がだんだん増えてきておりまして、やっぱり少子高齢化で施設に入られたり亡くなられたり、その後誰かが借りるかいうたら誰も住まないというのが現実であります。そんな中で何年も何十年も経つと、その家がだんだんだんだん朽ち果てていって倒れそうになっているというのが現状であります。ましてや道が狭く、

軽四がやっと通れるような道が多い地域であります。何とか行政で介入していただいて、危険な空き家を取り壊すとか、もっと具体的に話を進めていっていただきたいなという思いがあります。

空き地もあるんですけども、そこも何年もほったらかしで草がぼうぼうで、毎年草を刈るために家主さんというのかな、持ち主さんに電話して何とかしてくれと毎回毎回言うのもだんだん言いづらくなるんで、その辺も行政でやっていただきたいなど。100坪ぐらいあると思うんですけど、そこはもう草がかなり生えてますので、例えば災害時、火事とかあれば、どうしたらいいのかなという地域の人の思いもありますので、何とか行政で、その持ち主さんと交渉して、何年もほったらかしであればどうするんですかというぐらいでやっていただきたいなど、そういう思いであります。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。一巡いたしました。かなりの情報量、かなり皆さんの考えや思いをいただけたと思います。全部に答えていただくのが難しいかもしれませんが、区役所の方からコメント・回答いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○松村安心まちづくり担当課長

防災担当してます、安心まちづくり担当課長の松村です。とりわけ防災の件ですね、多くの意見いただきました。1つ、JDLとかですね、災害一斉訓練のほうですね、つきましては、引き続き実施していきたいと思っておりますので、この点をしっかりとやっていきたいと考えてますのでよろしく願いいたします。

あと防災の関係でいいましたら、備蓄物資の関係についてご意見があったと思います。能登半島で生活物資が届かないというような状況もございますが、大阪市の場合は、大阪府と大阪市が共同いたしまして、水や食料等ですね、一応3日分、避難所のある小学校には一定のものが無いんですけど、市内には数か所の大きな備蓄倉庫がございます、そこに大阪府と大阪市が共同いたしまして、3日分の食料等を備蓄しておりますので、それを各自避難所に災害が起これば配送していくという形になってます。その後はいろんな他都市の支援とかしながら対応していくというふうには聞いているところでございます。

また、トイレの問題、当然あります。トイレにつきましてはとりわけ簡単な凝固剤を使った携帯用のトイレにつきましては、避難所等に備蓄しておるんですが、大阪市的には、よくプラスチックのこういう簡易のトイレがございます。いろんなイベントとかであるようなトイレがですね、これは大阪市建設局のほうで備蓄をしておりまして、これもそういう大きな災害が起これば、それぞれの避難所に配送してですね、設置するというふうには聞いているところでございます。

そんな形ですね。あと防犯カメラのご意見もございまして、防犯カメラが高いところにあるとかですね、そういったご意見もございましたが、防犯カメラがついているということでの抑止の効果というのもございます。また、最近のカメラであれば、はしごに登らなくてもですね、電波を通じてカメラの画像が取れるとかですね、実際犯罪が起これば実際警察が活用しますので、そのあたりは警察がきちっと処理

していただけるように聞いてますのでご安心いただけたらと思います。一旦私のほうから以上でございます。

特定空き家につきましては、行政がということですが、一旦空き家もですね、空き地につきましても、所有者の所有物ということで、なかなか行政が直接介入して勝手に建物を壊すとか、雑草処理するのがなかなかできないというのがもどかしいところではございます。ただ、特定空き家につきましては危険なところがございますので、所有者の調査をできる形になってますので、所有者は、調査させていただいて指導なりをしていくという形になってます。ただ、なかなか実際はそういう相続の方が複数おられてですね。なかなか指導にするところがたどり着かないとか、もう生野区の場合でしたら、在日の方が多くて、もう本国に帰っておられて、もうたどり着かないですね、いろんな問題もございますが、そのあたりできる限り調査をさせていただいて指導を進めているというようなことが現状でございます。

○山納委員

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

○木村地域まちづくり課長

まちづくり協議会についてのご質問も承っておったかと思えます。参考資料の2の、まちづくり協議会のご質問にもございましたとおり、まちづくり協議会の機能・主旨というのがあります。総意形成機能であるとか準行政的機能といったものが端的な機能としてございますけども、そういった部分につきまして、機会を見つけてですね、重ねてご説明を進めてまいりたいと思います。ご理解のほどを賜っていききたいというふうに考えてございます。

また、まちづくり協議会に参画していただいている青少年指導員とか青少年福祉委員さんが、まちづくり協議会の中で民主的な運営の下、活躍できるような雰囲気醸成、そういった部分のご理解につきましても、重ねて、連長会といたしまして、連合町会長がお集まりの会議の中で、お願いをしていききたいというようなことも進めさせていただきたいと思えます。

また、まちづくりセンターにつきましてもですね、ちょっと支援が行き届いてないというご指摘承っておりますので、支援の方法について受託事業者とともに連携してまいりまして、地域の皆様に支援が行き届くように努めてまいりたいと思っております。

私のほうから一旦以上です。

○小川保健福祉課長

保健福祉課長の小川でございます。私のほうから、幾つかご意見いただきました妊娠期から産後すぐのケアについて、今私どものほうで妊産婦さんが孤立しないようにということで、保健師ですとか助産師、こちらのほうも取組みを進めさせていただいております。ただ、行政だけでできないよということでのご意見いただいておりますので、今後とも地域の皆さんですとか、ご協力いただける皆さんと力を合わせて取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

○川楠まちづくり推進担当課長

恐れ入ります。まちづくり推進担当課長、川楠と申します。学校跡地の件でいろいろとご意見賜りましてどうもありがとうございます。

その中で私のほうから1つ、川本委員からございました勝山小学校の学校跡地の問題でございます。繰り返しこれまでも地域の方々にはご説明してきたところですが、実は校舎のほうがですね、耐震基準は満たしているのですが、学校跡地になる頃には老朽化が進んでいるというようなことでございますので、校舎のほうは、その後活用するに当たりましては、一旦取り壊してですね、新しい施設なりを建てていくようなことを考えていかないといけないという実情がございます。そういったことも含めまして、地域の皆様方と跡地の検討の会議という場を設けさせていただくなりいたしまして、しっかりとご意見賜りながら、今後の活用を考えていきたいと思っておりますので、補足させていただきます。

○小原副区長

副区長の小原と申します。万博ヒートアッププロジェクトについて何点か、ちょっと見えないうことでご意見を賜りまして、ありがとうございます。

令和5年度からですね、万博の機運醸成ということで委託事業でさせていただいております。具体的には去年11月の500日前イベントとか、広報紙やポータルサイトを活用いたしまして、広報をさせていただいたところがございますが、なかなか見えないうところがございますので、来年度ですね、もう1年前に迫っておりますので、そちらのほうで広報を充実させまして、区民の皆様とともに盛り上げてまいりたいというふうに考えております。よろしく願いいたします。

あと、川中委員から若手の区政会議参画ということでご意見賜りましたので、ぜひこちらのほうも検討してまいりたいというふうに考えております。よろしく願いします。

○中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

教育担当課長の中條と申します。

私の方からも1つ、先ほど勝山小学校の関係で学校の耐震性がないんじゃないかというご指摘があった点についてですけれども、基本的には大阪市の小・中学校については新耐震基準を満たしている状況でございますが、ただ、勝山小学校については築年数が非常に長いという関係もありまして、老朽改築と、いわゆる学校再編との関係というところで、この間お話しさせていただいているところがございます。

それから、通学路の関係も幾つかご意見をいただきましたけれども、いわゆる子どもの飛び出しの看板とかにつきましては例えば学校等と、警察との関係で設置してきているケースもあるやに聞いておるんですけれども、一方で、区のほうでは、通学路の危険なところにつきましては安全点検プログラムという形で、関係機関や地域の方、見守りしていただいている方等とともに安全点検をさせていただいて、その危険箇所等についてできる方策、例えば、区役所のほうでは自動車等から見えるような形で電柱に巻付けシートをしたりとか、そういうケースもございます。ですので、そういう危険な場所につきましては、できる方策を何かしら区としても考えて、関係機関とともに検討してまいりたいと考えております。

○山納委員

よろしいでしょうかね。ということで、そろそろ終わりに向かっていこうと思います。

第1回目の会議ということで、非常に多くの意見を出していただきました。大事なことは今日出た意見を忘れないってことかなと思います。しっかり多分メモを取って行政の方でまとめられると思いますけれども、こういう議論をこれから2年間重ねていく、そして少しでも先に進んでいくってことが大事なのではないかなと思う次第でございます。

ということで、議長の北口さんにマイクを返したいと思います。よろしくお願ひします。

○北口議長

山納委員、ありがとうございました。

それでは、本日のご意見を踏まえまして、関係者としてご出席いただいております歴代の議長、副議長を務められました皆様から何か一言お願いいたします。

○多田様

多田と申します。連合町会長で地域の見守りとかやってるんですが、今現在、一番気になっているのが、地域での高齢者の見守りです。孤独死っていう命に関わる問題があるんで、これをどうして防ぐかということが今問題になってきます。そしていろんな問題をどういうふうに解決していくかというのが、一つは地域の会館を利用して、会館へ来てもらえばいろんな問題について関係機関へつなぐことができるということで、地域にはそう言ってます。最近はいろんな高齢者の問題を10件ほど抱えております。それぞれ解決されていっておりますので、そういうシステムが今、地域では構築できているのではないかと思うんですが、ただし100%ではないんですね。高齢者で孤独死、これを何とかして防ぎたいと思っております。それが一番、命に関わる問題ですので、非常に地域としては熟慮しております。以上です。

○田中様

北鶴橋の連合町会長を仰せつかっております田中でございます。

私もここで皆さん方のご意見、ご提案を参考にいつもさせていただいておりますが、自分のところの地域でも同じようなお話をよく耳にさせていただきます。直接皆さん方がここで話しいただいて、直接、役所のほうに届いているのは、我々ちょっと安心できるかなと思っておりますんで、もっともっと貴重なご意見をいただけたら我々も助かりますので、ひとつよろしくお願ひ申し上げます。

○和田様

和田と申します。私も勝山である町会の町会長をしております。

昨日ですね、たまたまうちの町会の役員会があったんですけども、そのときに出た話が、先ほど多田会長が言われたことと同じことやったんです。ここ数年やっぱ孤独死というのがありましてね。独居の方が非常に多いんです、うちの町会がね。それで今、子ども見守り隊っていうのは非常に皆さん活発にされてるんですけど、うちの町会のほうはお年寄りの見守りを強化しようと、例えば回覧板が止まってい

るであるとか、電気がついたままになってるとか、そういうことがあれば、皆で連絡し合いながら見守っていこうと。うちはたまたま勝山連合で「家族カード」というのを去年作りまして、非常時にとっても役に立つ。プライバシーの塊なので保管方法については非常に気をつけているんですが、その家族カードが何回か非常に役に立ちましたので、これからお年寄りの見守りということに力を入れて活動していこうと、昨日たまたま町会の役員会でそのような話がありましたので報告させていただきます。以上です。

○新井様

新井です。今年から町会長になります。

防災について、神戸防災センターに行ったときに、語り部さんから、今の防災には女性の意見が少ない、反映されてないっていうことをお聞きしたので、これからの防災についていろんな、ジェンダーの件もありますし、いろんなことを反映させていただきたいと思います。

あと、暮らしがどんどん便利になっていく一方で、電動自転車とか電動スクーターとか、その人の思いのままに走られるので、出会い頭とか大きな事故になりかねないので、いろんなものにスピードがついた分、人への温かさとか優しさとか、そういうことが欠けてきたように思います。

今、皆様のご意見とかお聞きして、挙げていただいた思いを少しでも解決に導けるように、その一役買えるようにこれからも尽力していきたいと思います。よろしく願いいたします。

○伊藤様

生野区地域振興会女性部長の伊藤でございます。

先ほどから高齢者の見守りというお話があったかと思います。私たち東中川地域では、役職者じゃなく地域に本当に住んでおられる、普通の方っていったら語弊がありますが、その方々がやんわりゆっくり見守っていこうという形で取り組んでおります。そして何かちょっと異変があったら、関係機関にすぐつなごうという形でやっておりますので、これはやっぱり地域で、もう本当に長く、いろいろなことを知っておられる方々の力がなければできないことだなと思っております。こういう形で皆さんの熱い思いも一緒にそのボランティアの人たちに伝えていけたらと思っております。今日は本当にたくさんのご意見ありがとうございました。

○三木様

鶴橋地域の三木と申します。先ほど防災の、いろんなお話をお伺いしました。それで北口議長のほうから、昨年11月の避難訓練というのをお伺いしましたけども、鶴橋地域では、この11月の同じ日にちで、緊急時の避難所の開設訓練というのをやりましてですね、まず各町会から町会で、第1次避難場所、集合場所に集合し、それから防災リーダーのトランシーバー、無線ですね。指示によって、避難所に順次受付、訓練を行うというのを行ったんですけども、実際、町会全体で見ますと、使える無線機は約半数しかなくて、2つの町会で、ふだん集まったことのないような場所に2町会が合流して、それから防災リーダーの指示を得ながら避難所に向かったという経緯がございました。令和6年度のまち協の予算等で、順次、不足分のト

ランシーバーは充足されていくだろうと思えますけども、いざ緊急時の対策本部というのは当然区役所になりますし、区役所のそういう無線設備、ランシーバー等について、いつでも使用可能という状況にあるようにぜひお願いしたいと思っております。

それで、いざというときに、ふだん使っているランシーバーでいいじゃないかと思われてるかもしれませんが、スマホについては、広い意味では、実は無線機なんです。当然、割当て周波数というのがありまして、緊急時に一斉にスマホを使おうと思っても周波数によっては使えない場合もありますので、ぜひ無線機の整備のほう、よろしくお願いしたいと思えます。以上です。

○北口議長

ありがとうございました。

それでは、その他ということで、事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。皆様、お疲れさまでございます。

事務局から1点お知らせいたしまして、今後の流れでございますが、来年度の生野区の取組み案について、今後最終整理をいたしまして、来年度の予算案とともに2月から予定されます議会に諮られ、可決されますと新年度の取組みが始まります。

次回の区政会議は新年度に入りまして、夏頃にかけて第1回目の部会や全体会の開催を予定しておりますので、引き続きこの区政会議の場で委員の皆様のご意見をいただきながら、よりよい区政につなげてまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

事務局からの連絡事項は以上となります。

○北口議長

それでは、最後に筋原区長から一言お願いいたします。

○筋原区長

皆さん、本日も長時間にわたりましてたくさんの貴重なご意見を賜りまして本当にありがとうございます。

子育て支援、防災、また高齢者の見守り、地域活動、本当に様々な貴重な意見を賜りました。当然、区役所ですね、まだまだできてないというところも多くございます。一方で、いろいろとやっているんですけどもそれがお伝えできていない、あるいはやっているけれどもそれが効果的でないやり方になっているというところも多分あると思えます。そういうところ、また引き続き皆様方と意見いただきながら、そしてそれをまたフィードバックしてこのやり取りをしていく中で、いい方向に進めていければと思っております。ぜひこの区政会議ですね、皆様方のご意見いただき、私どもも、この意見のやり取りをしながら前向きに進んでいける会議でやっていきたいと思っておりますので、どうぞ引き続きのご支援ご鞭撻、ご指導をよろしくお願いを申し上げます。本日、本当にありがとうございました。

○北口議長

ありがとうございました。本日は委員の皆様から非常に活発な意見交換がなされ

たと思います。区政会議は、我々区政会議委員が区民を代表して、区政に参画する大切な場です。委員の皆様におかれましては、地域の皆さんに、本日の会議の様子をお伝えしていただければと思います。

それでは、これにて本日の区政会議全体会を終了いたします。皆様、ありがとうございました。どうぞお気をつけてお帰りください。

(閉会)